

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 6 部門第 2 区分
 【発行日】平成28年3月17日 (2016.3.17)

【公開番号】特開2014-202778(P2014-202778A)
 【公開日】平成26年10月27日 (2014.10.27)
 【年通号数】公開・登録公報2014-059
 【出願番号】特願2013-75883(P2013-75883)
 【国際特許分類】

G 0 9 G 3/30 (2006.01)

G 0 9 G 3/20 (2006.01)

H 0 1 L 51/50 (2006.01)

【 F I 】

G 0 9 G 3/30 K

G 0 9 G 3/30 J

G 0 9 G 3/20 6 2 4 B

G 0 9 G 3/20 6 1 1 J

G 0 9 G 3/20 6 1 1 H

G 0 9 G 3/20 6 1 2 E

G 0 9 G 3/20 6 4 2 A

H 0 5 B 33/14 A

【手続補正書】
 【提出日】平成28年1月27日 (2016.1.27)
 【手続補正 1】
 【補正対象書類名】明細書
 【補正対象項目名】0 0 3 6
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【 0 0 3 6 】

このようにして、電界効果トランジスタ $T_{R_{12}}$ のドレイン電圧は、基準電圧 V_{Ref} に収束し、電界効果トランジスタ $T_{R_{12}}$ のドレインの電圧は変化しなくなる。これは、電界効果トランジスタ $T_{R_{13}}$ のソースドレイン電流と 電流源 1 0 1 の電流が同じ値になったことを意味する。

【手続補正 2】
 【補正対象書類名】明細書
 【補正対象項目名】0 0 5 8
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【 0 0 5 8 】

上記の定電圧回路において、pチャネル型の電界効果トランジスタ $T_{R_{26}}$, $T_{R_{27}}$, $T_{R_{28}}$ 及びnチャネル型の電界効果トランジスタ $T_{R_{29}}$, $T_{R_{30}}$ が、正電位側の電源 V_{dd} と低電位側の電源 GND との間に直列に接続されている。電界効果トランジスタ $T_{R_{26}}$ は、ゲート電極が定電流源トランジスタ $T_{R_{25}}$ のゲート電極に接続されている。電界効果トランジスタ $T_{R_{27}}$ は、インバータ回路 1 3 1 で反転された反転走査信号をゲート入力とすることで、走査信号のアクティブ区間にオン状態になり、定電圧回路を作動状態とする。電界効果トランジスタ $T_{R_{26}}$, $T_{R_{28}}$, $T_{R_{29}}$, $T_{R_{30}}$ は、ゲート電極とドレイン電極とが共通に接続されたダイオード接続構成となっている。